



|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 芒亭書屋談叢                                                                            |
| Author(s)        | 芒亭                                                                                |
| Citation         | 各務時報, 109                                                                         |
| Issue Date       | 1940-06-25                                                                        |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/77652">https://hdl.handle.net/2115/77652</a> |
| Type             | article                                                                           |
| File Information | A018_02_03all_Part39.pdf                                                          |





# 各務時報

コノ草而ヲシヨ

## 芒亭書屋談叢

五畝ばかりの或る一劃の畑に甚だ異様な作物があるので、何が作つてあるのかと物好きに少し近寄つて見ると、其は一面に雜草が生えて居るのであつた。魚釣りに行く途中での事である。更に近づいて見て私が驚いたのは、其雜草の一群は人が人爲的に植ゑてもこれ以上に密生繁茂させる事は出来ないであらうと思はれる位よく茂つて居る事であつた。どの畑地でも半年も捨て置けなければ皆こんなにも雜草の原になるものかと思ひ、感じた事であつた。そしてその周囲の麥畑を見て其整然たる經營に今更らの様に頭が下がる思ひをした。

日本農業の一つの特異性は雜草刈除の爲に甚だしく多くの勞働力を用ひて居る事であると云はれて居る。太平洋とモンスーン地帯に對する特殊の位置に置かれて居る日本の世界的に極めて特異な多濕性の氣候と其地質とが雜草の繁茂に最もよい條件を與へて居るからださうである。然らば日本の農民は過去何千年來不斷に雜草と戰つて來たし、又何時迄も戰つて行かなければならぬ宿命を持つて居る。

無味乾燥な除草作業は極めて苦痛多き作業である。其は他の作業に見る様な烈しい一時的な勞働は要しないが、何の變化もなく何等特殊な感興がある譯でもなく、殆ど誰にでも出来る様な仕事の反覆であつて、其處には只營々として倦まざる努力と忍耐があるのみである。かくの如き作業は體驗的に極めて困難な作業に違ひない。されば我が國に於ける上農と下農の別は全く除草に力むると怠るとの別である。未だ草を見ずして草を採る者が上農であり、草を見て草を採る者が中農である。下農とは草を見て草を採るを怠る者である。倦まざる努力と絶へざる忍耐こそ日本農民が其生活體驗の中に學んだ高い徳の一つである。

知識と技術を學んだ丈では、未だ一人前の日本の百姓ではない。其名に値するには絶えざる努力と倦まざる忍耐をどこまでも續け得る精神的鍛錬が心根に徹して居なければならぬ。

日本人は感じ易くさめ易く直ぐに飽き易い性質をもつて居るから長期抗戰は其最も不得手とするところであると云ふ人がある。然しそれは思ふに皮相の見でしかあり得ない。最も正當な意味に於ける日本人の性格は當然農民としての生活經驗の中に培はれて來て居る筈である。久しい間國民の大部分を占めて來た農民に於いては、堅忍持久の態度は其長い歴史の間の生活の内に不斷に訓練を重ねて來たところである。只江戸時代の町人の間には一時に逸る淺慮輕薄の態度を殊更に尙ぶ風があつた。都市が昔も今も文化的に支配的である爲に此江戸時代の町人の風が一見國民の間に一般にも存して居る様に思はれがちであるが、全般的に見れば日本國民の性格は農民が其久しい體驗の中に作り上げて居る性格を基礎として居るものである。其は羊の様に温良で、牛の如くにねばり強く、而して一度猛烈と怒れば虎の如くに勇敢なる農民の性格である。

興亞の聖業は尙ほ相當の歳月を要するであらう。所謂長期抗戰は尙ほ五年つづつか十年續くか分らない。それが何年續かうと、我が國民は牛の如くにねばり強く虎の如くに猛く此難局を打開しなければ止まないであらう。

愈々又梅雨に入り、田にも畑にも雜草が日夜毎に伸びて居る。だが銚後を護るどこの農家でも皆鎌を砥いで待つて居る。(芒亭)

皇紀二千六百年、各務の學園に獸醫學科が新設せられて農學に關する綜合專門學校としての本校が一段の飛躍をなし、新興の意氣と之を育むものゝ熱意とが渾然融合して茲に新しい歴史が作られた。あることは誠に慶ばしい限りである。此の際校友諸君に獸醫學の何たるかを御紹介することは新設獸醫學科の相貌を諒解して戴く事にもならうかと思ひ文藝部が需めに應じて筆を執ることとした。もと

## 我國畜產と獸醫學

柏岡民雄

より匆忙の中に筆に任せて書き流すことであるから至らぬ節の多々あることと思ふが御容赦を願ひ度い。先づ獸醫學と一般醫學との異同に就いて考察するに、醫學は仁術なりと言ふ點と研究の方法とは全く同一である。即ち人類も一般動物もその生命現象は共通の根本原則に従ふとするのである。而し醫の目的に於て前者が主として經濟動物である家畜(家禽を含む)であるに對し後者は直接人類の衛生並びに治療を扱ふ所に第一義的な相違がある。而し人畜共通の疾病並びに病原体に關しては兩學一致協力して之が研究に當るので人畜共通の疾病とは例へば狂犬病(恐水病)、結核、炭疽(脾臓症)、鼻疽等である。兎に角人類疾病の治療には獸醫學は直接關與しないが豫防には前記以外にも可成り廣範圍に涉つて關與してゐるのである。次に獸醫學と畜產の關係如何と言ふに、兩者は車の兩輪の如き密接不離の關係にあると言はねばならない。畜產の興亡と共に獸醫學は盛衰し、獸醫學なくしては畜產は健全な發展を遂げることが出来ないものである。

葛西博士(北里研究所)の歐米獸醫學界見聞録からその二、三の狀況を引用して我國のそれと比べ、今日破竹の勢で歐洲をしのぐあるナチス獨逸は獸醫學最高教育機關として、柏林獸醫學大學、ハノーヴァー獸醫學大學、ギッセン大學獸醫學部、イェナ大學獸醫學部、ライプツヒ大學獸醫學部等、ライプツヒ大學獸醫學部は元來科大學としてドレスデンに置かれてあつたのを一九二三年に轉じて此の大學の一學部となしたのであるが戰後窮迫の極にあつた獨逸が大枚百萬圓からの大金を以て一獸醫學部のために壯大な築を起したと言ふことであるが如何程斯學を重視してゐたかが如何程斯學を重視してゐたかが如何程斯學を重視してゐたかが如何程斯學を重視してゐたか。次は地域的には遙かに廣大でつた當時に於て僅かにカザン、リコフ、ワルシヤウ(波蘭)ドルイト(エストニア)の四大學で現のソ聯の領域にはその時代僅かに二大學が有るのみであつたと言ふが一九一八年の革命後ソ聯は各々學校の増設を計り現今ではスコフ、カザン、キエフ、ハリフ、オムスク等十七大學を數ふに至り中等程度の獸醫學校は三、四十あるとのことで元のモスコフ畜產科大學などは、モスコフ獸醫學科大學、同牛科大學、同豚科大學、同羊科大學、同家兎毛皮獸科大學、同家禽科大學に分割せられ、モスコフ獸醫學科大學は更に豫防獸醫學科、治療獸醫學科及馬學科の三附屬科を含むに赤軍獸醫官講習會附屬してゐる。而して前記各獸科大學に於て夫々專門に就いて極めて集約的な教育を施してゐると言ふ事である。修業年限は何れも三ヶ年乃至四ヶ年と言ふ。スコフ羊科大學の如きは學生總數一千名、職員は教授以下百五十名と言ふからちよつと驚かされる。又女の學生も相當多いと言ふ事である。賢明なる政府當局は獸醫學機關の擴張のみを以て満足せず進んで各種機關の發展充實に一層の力荷を入れモスコフの郊外に上

印刷日三十二月六年五十和昭  
行發日五十二月六年五十和昭  
印刷所 印刷會商山若  
編輯者 伊藤 隆 夫  
編輯者 山若 治郎  
印刷所 印刷會商山若